



特集記事

— 地域作療のススメ⑤ —

巻頭言 ～ 寄り添う心 ～

目次

- ・活動報告 (2023年2月 ～ 2023年4月)
- ・特集記事 (地域作業療法 of ススメ⑤)
- ・私の職場の強み
- ・突撃！となりの作業療法士
- ・岐阜県リハビリテーション協議会便り
- ・新人会者・退会者数紹介

寄り添う心



岐阜県総合医療センター

中島 弥生

5月に入りコロナも5類に移行され、皆さんいかがお過ごしでしょうか？当院でも少しずつ家族が面会出来る機会が増えてきてホッとしているところです。この3年間、大切な家族や友人と十分に面会出来ないまま亡くされた方もみえるのではないのでしょうか？私もそんな体験をして、人の生きざま、死にざまについて考えさせられました。

今回巻頭言のお話を受けてから、自身の作業療法を振り返ってみました。実に色々なことがありましたが、記憶に深く刻まれているのは「死」を目の前にして苦悩する患者さんやご家族の事です。独居生活で皆に迷惑をかけて生きていたくないというAさん、食事を摂ることが出来ずお先真っ暗と言われるBさん、もっと遊んでおけばよかったと後悔するALSのCさん、末期がんで苦痛に苦しむ娘さんにモルヒネの使用を拒むご家族等々。そんな時、どの様な言葉かけが最善だったのだろうかと考えさせられました。完璧な答えは見つかっていませんが、今までの生活背景を、興味を持って聞きながら、何を大切に生きてきたのか、そして今の気持ちを聞いて寄り添うように心がけています。全てを理解することは出来ませんが、その人が生きてきた世代や環境、性別などを想像すると、その人の価値観に少し近づける感じがします。

昔受けた講習会で、がん患者さんの気持ちの疑似体験をするというものがありました。今大切にしていることを10個挙げて、そこから1つずつ選択して減らしていった時にどう感じるのかを想像してみましょう、というものです。身体機能や社会的なつながりが少しずつ喪失していく事を想像しただけで孤独感や疎外感、焦燥感、不公平感を感じると思います。そんな気持ちと闘いながら最後まで生き抜くということは本当に大変な精神力が必要だと思います。同じ状況に置かれたら、私自身平静でいられる自信はありません。

進行疾患に限らず、障害を持ってからの人生どの様に生きるのか、その人らしく生きられる手伝いをしていく事が作業療法だと思います。人生の終末にやりたいことはやり切った、ご家族もやるだけのことは出来た、良い人生だったと思っていただけると幸いです。

コロナも5類に移行されたことですし、皆さんの人生もそう思えるように特に若手の人には大いに勉強に励み仕事をし、そして大いに遊んでもらいたいな（感染に注意しながら）と思います。



岐阜県作業療法士会 活動報告

2023年2月～2023年4月

【記載内容】

日付／内容（場所）

*備考（研修会のテーマ・参加者数など）

会長

2月14日／医療職臨床関係者教育連携会議
2月20日／入会促進事業
岐阜保健大学 短期大学部
2月21日／平成医療大学
サンビレッジ国際医療福祉専門学校

全部局

3月7日／岐阜県リハビリテーション協議会
定例理事会

協会関連

3月11、12日／47都道府県委員

地域リハ推進部

2月16日／日本作業療法士協会関連研修会
3月9日／認知症関連の人材育成の開始に向けた県庁訪問

財務部

2月14日
3月21日／長尾会計事務所訪問

現職者研修部

2月26日／現職者選択研修

広報部（会員向け）

2月28日／広報誌「ごったに」108号 発送

総会運営部

4月22日／議案書一斉確認作業

学会

4月18日／第11回運営会議





2024年トリプル改訂 それに向けた準備の年

2024年は医療保険の診療報酬、介護保険の介護報酬、障害福祉サービスの報酬のトリプル改訂の年です。既に、地域包括ケアシステムの推進に向けた医療・介護・障害サービスの連携、認知症ケア、高齢者施設での医療等が課題に挙げられ議論が進んでいます。特に、医療から介護への水平的な連携の構築、既存の地域包括ケアシステムの深化、障害福祉に

おいてはリハビリ専門職の配置及び支援計画の実践が重要視されています。今後の動向に注目しつつ、今、何が求められているかを見渡す時でもあります。

大垣市地域ケア会議 OT 助言者 令和5年度は市内7エリアへ



令和5年度大垣市元気にしよう会議（自立支援型地域ケア会議）は、昨年度の市内6エリアから7エリアに拡大して開催されます。各エリア別の担当作業療法士を配置が進んでいます。運営関係者からはPTとは異なる視点での助言が求められています。

編集後記

流行ではなく、必然であり不可欠な事象です。経験値のみでは対応しきれないことを切に実感するとともに、確かな倫理観に基づく実践と、理論知と実践知の融合が求められているように思われます。

藤井稚也（岐阜保健大学）

認知症人材育成研修開催を計画 岐阜県庁を訪問

岐阜県介護予防推進指導者養成研修事業費補助金を利用した人材育成研修の開催に向け、君垣先生と井上先生が岐阜県高齢福祉課を訪問し意見交換をしました。認知症ケア、予防、共生社会の実現等、作業療法士への期待は高まるばかりです。詳細が決まり次第、会員へ発信します。





私の職場の強み

第26回



近石病院

リハビリテーション部



私たちは、地域住民の安心と笑顔のため、
総合的なリハビリテーションを全力で提供します！

病床数：125床（一般病棟 39床、回復期病棟 44床、
療養病棟 42床（内 地域包括ケア病床 29床）
スタッフ：PT 27名、OT 14名 ST 5名

近石病院リハビリテーション部は、 進化を続ける活性の高い組織です！

当院のリハビリは病院の中核的なサービスであり、地域の方々から高い評判をいただいております。私たちは量的、質的にサービスを充実できるよう取り組んでいます。



近年、力を入れていることの一つに、新入職員の卒後教育と、指導者の育成があります。この数年は新型コロナウイルス感染症の流行もあり、臨床実習機会を十分に持てなかった新卒療法士が入職することが多くなっています。新卒療法士を含め、職員がレベルアップできるよう教育体制を整えています。

<当院の教育体制について>

- ・中堅職員は臨床実習指導者講習会に参加し、指導の方法論を理解してもらう。（現在 PT13名、OT10名が講習会を修了）
- ・1人の新入職員に「指導責任者」、「指導補助」をつけ、新入職員と、将来の指導者を同時に教育。
- ・評価用紙を用いて、指導チーム毎の進捗確認と、課題に対する指導方法の検討。
- ・OSCE勉強会、症例検討会の継続的な開催。



今年度は、9名の新メンバー（PT 6名、OT 1名、ST 2名）を迎えました！



子育てと介護と仕事を 並立して



特定医療法人 生仁会
須田病院 作業療法室

小林 れい子



略歴：

平成 10 年 3 月
平成医療専門学校 作業療法学科卒業
平成 11 年 4 月
特定医療法人 生仁会
須田病院入職

私が精神科病院に入職してから 23 年が経ちました。現在は、精神科作業療法を中心に認知症疾患治療センターにも従事させて頂いています。私事になりますが、介護していた母が他界してからもう 4 年が経ちます。介護に携わる中で、母のニーズは何か？出来なくなっても家族の役に立ちたいという想いをどう反映したら良いかなど常に考えておりましたので、毎日が作業療法だった事を覚えています。

他界するまでの一年間はパートで働いたり、子育ても真っ最中でしたので本当に大変ではありましたが、今となっては、医療を提供される側の思いや、介護を担う家族の心境など気づかされる事も多く、現在の支援に活かされていると感じます。介護と育児と仕事を並立していると、とにかく時間がありません。遊びに行く事も友達に逢う事も後回し。

しかし子育てだけ、介護だけに集中してしまうと潰れてしまいます。職場が唯一の外との繋がりでしたから、職場で話を聞ってくれる同僚がいた事は大きな救いだったと思います。子育ても介護も必ず終わりが来ます。真っ只中に居ると、辛くて厳しい現実しか見えませんが、ふと終わって振り返ると、色々な経験値が積み重なっている事に気付かされません。

これからもこの経験を生かし、今度は私が子育てや介護を迎える方を支える番だと思っています。

一社) 岐阜県リハビリテーション協議会便り(第16回)

文責：会長 柴 貴 志（岐阜県立多治見病院）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、日常はTPO(「時間」「場所」「場合」)を問われつつ過ごす日常になります。日常と言っても何か一風変な、違和感のある日常シーンのコマ送りという感じでしょうか。

当協議会ではこの3年間は、書類による総会でしたが、本年度は対面により通常総会を行います。法人設立後5年が経過し、設立総会以来の対面総会です。当協議会の活動に関しての審議が、代議員の方々過多活発に出るものと期待をしております。揉まれてこそ活動の方向性がよりクリアーになり、共有をして行けるものと思います。「雨降って地固まる」ですね。これからの日常も遠ざかっていた人との関係も、様々な行事も質の高まった新たな日常となることを願います。





2023年5月

岐阜県全会員数 586名 (休会者を含む)

県土会所属施設 164施設

PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー

**法人様向けパンフレット
お送りいたします**

資料請求
の手順

QRを読み込んで
アクセス

リハノメ
HPトップの
バナーを
クリック

または
資料請求はこちら

リハノメって?

「リハノメ」はPT・OT・STのための、
どこでも学べるオンラインセミナーサービスです。
各分野の専門家が臨床経験や研究成果に基づいた知識・
技術をお届けいたします。

法人プランには、「法人管理機能」
が備わっており、職員の状態状況を
正確に管理することができます。

少人数向けプラン 10名程度まで 2,566円/月 人数×2,566円/月 となります。	リハノメパスA 10名程度まで 15,400円/月 1人当たり2,566円/月で 人数を追加できます。	リハノメパスB 30名程度まで 30,800円/月 1人当たり2,566円/月で 人数を追加できます。	リハノメパスC 人数無制限 92,400円/月 ※契約価格は 全て税込となります。
---	--	--	--

リハビリテーションを
「かたち」にする会社

〒461-0004
東知原町志保市東区東1丁目26-12 IKKO 新栄ビル6階

お問い合わせはこちらまでお願いいたします▼
☎ seminar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611

— 都会には無い働き方がここにある —
私たちの知識と技術で地域を支える

元気は世界を救う

ほんとにかよ?!

答えはあなたの目で。



業務内容: デイサービス内での機能訓練や訪問リハビリ
勤務地: リハビリデイサービスひまわり高山店または古川店

2014年/ 起業
・デイサービス2軒+訪問看護ステーション+スポーツクラブ経営
2023年/ スタッフ55名・年商約2億円
・今後5年で倍増を目指します

経営の勉強や、現地見学などのお問い合わせは
電話かメールでお気軽にご連絡ください

☎ **0577-77-9530**

(リハビリデイサービスひまわり 担当: 田町 淳)

mail: dayhimawari83@yahoo.co.jp

HP: <https://www.himawari-g.net/>

ホームページ



印刷 (有) いすくら

〒501-2514 岐阜市三輪宮前 164-1
TEL.058-229-6091 FAX.058-229-6093
isukra@muse.ocn.ne.jp

機関誌編集部

機関誌「岐阜作業療法」論文投稿のお願い

日頃より機関誌編集部の活動にご協力頂き
まして、厚く御礼申し上げます。

この度、機関誌「岐阜作業療法」発刊に向
けて準備を進めておりますが、現在、論文の
投稿が少ない状況です。

岐阜県作業療法学会だけでなく、日本作業
療法学会等、他学会で発表された方も、論文
として岐阜作業療法に投稿してみてもいいか
でしょうか?

「論文を書くのは難しそうだ」と思ってい
る方も多いと思います。査読等の手続きを通
して、掲載までサポートしますのでご検討頂
けると幸いです。よろしくお願い致します。

機関誌編集部 宇佐美 知子
E-mail: usami-dort@toyota.ac.jp

広報部 (会員向け)

岐阜県作業療法士会ニュース

「ごったに」編集

岐阜県作業療法士会 (広報部・会員向け)

山田病院

〒501-0104 岐阜市寺田7丁目110番地
TEL. 058-254-1411
FAX. 058-254-1413

山内ホスピタル

〒500-8381 岐阜市市橋3丁目7番22号
TEL. 058-276-2131
FAX. 058-276-1501